

畠 譜

付 山

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

二百一冊内

現共十一

内閣文庫		和書
五六函	三六〇八八號	
一〇架	二二冊	類

八八九



内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211(88)
函號	156 17

陶
373

東照宮御用

中山

丹波守

三、二年石

記録御用所

家紋殊形角

水背虎紋

多治川人合大屋町在治
酒風之參之御事十二代於

刑部左馬主仲彌子

中止助侍也 助助六

家筋

上松家は天文二年以降征軍
の内津原・麻生家が主導し
續りゆん々と時を失ひのせも
多くて久く難局に助ふらず中
にもす直屬のやうにせりが
左近とよみと上松家より遣
色もと見いと上松家より遣
一派を領す天正二年七月廿日
至る九月五日上松家が居

中ノ村社に手に争ひ

家筋中ノ村主義朝・義安らとい
ひ今ふふふの家筋もく程掌
とある清松寺を主事別和而り
おまえ翁を文達より信濃國
酒泊りとすの村主おまえ翁至
て師ノ一宗致へく候ひの
間も未だとて附身居間ひ候

仁宗天皇は御事御事御事御事御事
御事御事御事御事御事御事御事御事
王室九年春 沢井下賀

家範

功立花

勅許由 功助、

小室家範は水原の勅許由也

東京守山の阿多野大石義重
こち小瀬山城とす。信玄當主成
吉と一城と攻め下す。とて信
成吉が家範と後く立花軍功
と勅許由と立花軍功と立花軍功
と立花軍功と立花軍功と立花軍功
の内立花軍功と立花軍功と立花軍功
の内立花軍功と立花軍功と立花軍功

七年以來兵野久小山陣も河
様より敵をまつて死んだ
る。後と全班殺し。不思議
三年住むをうなづく。家の大改
令と家を換へる。四年之
年十二月三百萬方の金銀小
軍切有住處感の所腰刀及
兜と刀。腰刀は四國守は持すと今ま
ゆふらはれ。後は家を改め。後は里屋

あきらめよ。此の事
アキラメよ。後は。五年住む
御と小節手に被り。之後とて
日本育てる事不仕合
す。而はこれを日本費向の所換へて
天龍門をもとお花主と津
五箇門と。一年候とて
育てたるを嫌深と。而は今中止
ひ。四年のとて。伊丹爲重對

津のとて主取の下を御りやむ
極と申しまさに古群の格擇
家死るを教へて地は王深
とある日、年大半の頃
同年祭事と在園にて、既故
之故より餘と合歎と致の日
十六年六月一日家死中と在河
高麗不計家じゆく津と見
ましゆとぞ思ひ度す。往々夜

アタシ平十孫歌津上突入
貢奉さと平家死の乞ひの
アタシ門主、内主と高利家、
王家城と改じてからいに紫
氏群山高家城とて桂北監焉とて
正死れ物をて庵と名ふ。今
城とて、監あらむとちとて家死
一處に中九主前日家死七年小
つて、余恩を古群に及ぶ

本日旦前子氏御尙書
す家死遂言をもつて運命を
天命を仰き力と弱くちまつた
うじと雖あつてもれのゆゑ父母の爲
小室死をもよそがりつゝ速に逃亡
しゆく恨むとて死をふさ年
不外逃亡すに附従年少の爲
及家死一店と復年少の爲
之殺害後之をとて多監視を

と重く憤りて追えり一家
死を尼子移振致す利
家を奉祀するて今まにほぢ
少青年被累而よりやう被る雪
故説のまぢり教化と助ひ
ては多大の家死を家死
されとぞとぞ家死年少
之をうち利家被をとひて當
系子をかくと多便と島本と秀吉

云々おれの志願と爲りまく首とほ
を戴橋へ除一朝御用事とお
もて、萬葉城守のへど、其首は
取てとりまくに至る道焉を
無事育成す。城守又のうち武
力も多難邪ねはる中し付終二年
小矣。

この紫家家の令下にて甲剣の復乞
くわがのとくを因たす助もよ長力

一括納む在處(ま)(まの處あるはる)、
口付住まう。松毛桂(マツモケイ)、教法良
師(ヨウシ)、紫家(シキヤ)、宗孙(スムジ)

熙守

初家守

勘定司 助助六

紫家家主仕奉年三十年守歎文

近ノ節々金錢の附場院めく首級
とる所にて、東麻と義かくの弓
川氏と野別様本に致し、よき融界
と義とを東學ち開道うち寒かく
敵と致り日本家より侵そく
感せらる。少室氏佐助の城と小
野寺吉全義の附場院有段敵と大
勝とす。主事家を死危く思ふれど
黙ち止む。是處の正尾兵衛

野尼島南キテ、手代ひも、萬方不
利りと主事と而まつて防戦と
天正二年、筑波金錢の附場院
改入父と木下徳と合父、猪高と成敵
ともと之に照ち重車の筋
猪高とままで、二年八月
亨父と宗義と馬郷二流爲
まくの四年、有小室家彦

中高村の範庄。國年、宵
東興文、名を以し初見。病歿於恩
多のまほに。之は收も或ひ多舞郎
平山村の多村か。弟が有石氏
中山材屋為忠黒氏の子なり。不
滿の如きと云ふ事無也。

在酒徒而府へ之を長年
吉田津の附刻同在。之の旗
有事半路と。卒八歳。外姓大字

攻入。治參。今あるもの七八十中也。勧
解也。小節没済。左馬連佐不焉。清
正。命戸内守。年太。守。正。節
約。倉。奉。守。力。不。敵。之。城。中。進
入。其。之。既。之。篤。之。今。之。年。一百。
之。處。不。往。江。軍。法。は。背。之。直。向
之。篤。之。既。之。篤。之。今。之。年。一百。
事。二。月。大。有。加。秩。有。石。墨。

もゆうのとくに事あす中住まひ休
不^レ

在在注御度有り御之をばくして
通の事可い御心と和心と清心と
おまえ御心敵をとて失心ちと
失心自心ち此身の心も村整
る只人おまえ心と合敵をとゆ
一五疊丈たれの身の上と法事の能

主と國の御事無からず事もひ故
少く有りとゆきとて事も有りと
少く其事もとて事もひ故
とゆきとゆきとゆきとゆきと
大處も多巻へ水の事すよひと
く口難本清初一史政行ひ
早とを度つ所へ監事取られ
位事なれどもいとぞいとぞ
そ之へ中止まひ平方モ

楊市西主事
伊豆の序
附
監等からまし今月の勅 江國
思ひる はるかに 江原津波同
年十二月廿六日 在多和秋之右石
○官舟役の不和一年前
左近忠祥の子也免よりと申
て此處へ退去のとき
左近忠義 じよしと申す中井勘定
と申す者も在り

御在の處も御はせ事アリ
熱勲辭謝シモニ 里見の多
の、主教平ノアシテシハ群
ハ仰よ難ち主事太和未矣
生レ、お有レタ急令事だニテ付
處今不志シ事其志滅感也
達体シテシホの事ナシナ度
あふる事アリトモアハの事ナシ

至るに御國の事より、秋吉と
又かくと思ひよしに、國事は
懽喜より絶好と、御宿すゆ
小毛と度すあらまふる必怖せ
しのうるが爲めに、雷感焉
主事より御感狀すを
更詔勅

忠誠など伊勢の源方なり。忠誠

小枝をもつて又勤め化監を因
れ化度をくわびて、源氏の病
をもせしやう人にほのむる者
はもとより、その正統なるを
一目もさげぬ。而く只ら小枝
浦島より之の無所に思ひの外
くも有りて、昨夜圓鏡等の
御舟の白雲教深山神事の竟
水元年六月四日庚辰未時

大英圖書館藏
清光緒九年九月廿四日
王國維

大輔之歎。附。宣永十年四月七日
空葉毛の如松の不全と、子者
石の年々不處中。シ村毛家内所而
之を無く。空葉馬術。後傳。以
之。

大英殿勅諭
御賜南○首
今永十一年

肩井百元の筆を廻中へ付け
辛巳年

此中生有瘧氣。一月不復入。
度日如年。如坐如臥。如死如活。
不知是人。不知是鬼。不知是神。
不知是魔。不知是仙。不知是佛。
不知是人。不知是鬼。不知是神。
不知是魔。不知是仙。不知是佛。

東陽文清先生集

直定

新経田 初點

至長五年七月廿九日

直使毛利元就の門下士年不復を
軍使さま。之和ノ年夏軍
佐は育て自ら五敗との内陸と
今有二段となる江岸軍のは
日本二月廿九日度事

新都是高石城の守將

大敵に破れ附れか秋高石。曰九年内六
月皆自殺死。是永二年八月
江上流絶在二柰山城。行幸の
事と。馬敵覽も存無く。左
年秋之物。直定。一
うち。貞永十一年八月。官吏姓
組毛利。曰十一年二月。下り
河内。毛利。父。主。と。之。年

右名づけはとてあまの右近
才勘之郎左衛門の口を年
青二百四十歳の事。深手
肩と背丸は年四十歳
大筋の筋は勘定花馬(馬筋)
毛と筋の筋は年三十歳
筋と筋の筋は年二十歳
筋と筋の筋は年二十歳

枝高鷲(ひだか)今中山綱元

直子

母波(おは)熙(ひ)新(しん)義(ぎ)

高(たか)洋(ひろ)

寛永七年八月一初日。
延宝二年十二月右背筋等之筋
才勘之郎左衛門の口を年

無事二年、有事之日、小性應。万
治之年、有事之日、當行民。月
十二月、其日布衣。○曰、三年有事、
是其國。七月、子之相渴。○宜之文。之
育王者水。芦中。國。羸弱。病。氣。うき
志。度。門。七。古。歸。渴。門。三。年。月
光。沛。伏。後。地。主。之。汗。本。五。○

中興の序文を執り以て教化と爲
名の御文書をかき、主君の御意
を御承取達官に付託して御傳
旨の官吏を御選ばれし。○門司
西院の主事勤番の御監督をあ
頃は御手引をまつて至らる。○天和
二年正月奉手が秋音石。○天和
二年正月奉手が秋音石。○天和

前田利家公御年八十有二
年の後又多集頭とお便り
曰く某が死ぬもやうに病魔に
く四年十月一百死すと云ふ
事に尋

新編馬部解傳之書

官直貢
布之庫

常寢深處にて爲す。寛永二年
八月廿日是處のうへ渡人を切口
時切腹口手に奉事。御通手原
水戸敵よろむる。

直房
勘定記 助六

寛永六年十一月二十九日未い
切口。寛永六年八月十九日坐

但。寛永二年十二月十九日坐
没。寛永二年四月。寛永二年十二月
家事考。寛永二年三月。家事考
之。寛永二年八月十日。是處。
同年十月七日是處。是處。
同年十二月十八日布衣。同年
八月十九日。是處。代。是處。是處
是處。是處。是處。是處。是處。

○丁年年貢田里石目付役
甲二年三月十日啟狀言
於丙年十二月三十日復開
代丁年三月是八日為九
月更官評滿○丙年十月一
月三十日度口小口大口滿得
丙年正月廿二日立契下
該城口原二月三日申請貢

某有弟滿○丙年二月經
大拿義城口原○家承之年八
月一百零二日立契次○丙
年四月廿九日死于卒未回

直前

直支
勘七

立書者唐承之貢屋役之

福二年六月五日立
小糸家新

直治

圖書

左吉又市吉左衛門の内室
足利の事。是は後見の之
承。年有半を以て死。利了案
致。加藤守忠の村代に仕事

直勝

監物

實中山あら河田玉房次男
李吉の病。校は高知の石の
うち重吉石坂公属子因心也
小糸吉首不り。正勝。庄
羅人足利の家水三年八
月死。同上。

來

因定性

安達八百石の主原十六年六月
土日水二月日年事

直

勅解史功勳舊寫照

天和六年七月八日歲之覽
元氣六年十二月九日狀得

○甲十二年閏七月政令立推古
清家水之年七月八日歲
日又年有更年五歲也。同年
十二月大吉布衣。同年四月
宜除奉禁閏月大八日歲
八月大吉兩府。西使足年二月
一百九十九年日年事

直
音

勘解由 カケラニ 暈

室水六年七月二日ナニキシテ
勢トニシテ年有下ノ日ノ
○國年六月廿日勘解由ニ及
保日年十月八日出性但ノ日
年十二月十九日未夜日代ノ九
年二月庚辰日西齊天人昌留
○日本年十月三十日未夜日付

の内大富利ナ育ミム吉之助。日
丁未年九月六日死ニテ一國守
に奉

勘解由 カケラニ 暈

直
音

嘉慶六年十二月二日水書
口音勘解由ニ及日本年

右是六日抄。之文。主年。背
丁酉。四月。日辰。年。六月。己
酉。自。代。主。人。自。而。日。丙。
乙。以。年。、。有。主。名。吉。油。府。背。
之。宣。深。二。年。四。月。丁。晦。之。背。
之。宣。深。二。年。四。月。丁。晦。之。背。
之。宣。深。二。年。四。月。丁。晦。之。背。

唐順

抄本

勅解比

如伊舟拉

實。古。有。沿。曾。

姓。氏。

宣。深。二。年。四。月。一。百。零。五。
八。食。十。百。初。之。宣。深。二。年。四。
八。青。白。度。書。四。年。二。月。下。百。三。
九。西。尾。城。之。後。有。大。自。五。海。四。年。
七。青。白。度。書。四。年。二。月。十九。日。
而。在。之。宣。深。二。年。四。月。不。該。府。
背。宣。深。二。年。四。月。不。該。府。

歸湯門七年十月不延年九
朱門年不葬

直寛

勘解世初新直寛

寶慶七年十一月不延年九
朱門年不葬。○
明和二年有才百物之素水
六年一月十日四月。○同年十二
月九日布衣。同年八月八日

後府直寛。○有才百物。○同年十一月
有高湯。○布衣。同年八月有小
薦。○有才百物。○天啟二年三月
一百兩。○日本。同年十一月有小兒
之年九月。○朱門年不葬。

直隆

即、即、即

天中。○國方。○朱門。○新管

天保二年十二月廿九日右吉子の筆
左翠士育ち手写ての宣教文
右吉子死二年六月廿九日

直有 勝ち郎

天保二年十二月廿九日右吉子

直有之父江曾詩一軸
江曾の河江先生墨画の連巻
一幅を从不持

中山勤行也照守乞繕送入多氣

手書

桂竹林 仲良

不義之原上後有事上云一科及無

四月六日

紫竹門

憲陽

加藤泰忠筆

家範
始末

壬午年夏八月之日書屬
皆傳達文矣起清正色清平使

此文也

宗方松翁公と

年是盡粉骨以復

之宗家一家す残れ
渡せんや小宗不
一人存セんかを
達文也此後無者
論で有り方起清一
通とて人仰仰

壬午年

宗道写

三百三十二

加藤忠定

加藤忠定

忠定

泰平八年、有事の父家を死んで之
後書の事は無く、余り中止したのである
筆者、忠定

家作書稿

忠定

忠定



三丁市不夜城前

卯之次

白山

卯之次

金花

梅院家主、後藤家流家家御
御傳法師の事、月日未定。一月、松林
系陸東寺氏群、御主より御承
御方替古木主の事、御傳法師の事、
御再び
主事御主の事、御主より御傳法師の事
梅院家主、後藤家流家家御

主事御主の事、御主より御傳法師の事

上意方々の御用事はまことに御承
りおもて御用事である。御用事のうちふち
と御用事の度合と付口割りのまことなりと
お能の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事
又お出でと二段と御用事の御用事の御用事の御用事
の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事
飛ば飛ばとおもて御用事の御用事の御用事の御用事
の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事
の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事

の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事
御用事の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事
は支度の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事
在り度の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事
御用事の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事
及開拓の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事
御用事の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事
御用事の御用事の御用事の御用事の御用事の御用事

五種之稿

大藏院御印 河野吉良

宗道室宣賜達文等之死書亦
在後序上使是其事也上不見
宗家於太達文等不除以禁酒於
處中之村也久之桂文仲之不
誠然而能有上如此以達文有
主不善之由

大藏院御印大藏院奉入上使
五種之稿了合時之場所未定之
以至未上手も大作舟上使之未定
甚難取扱ひ之件を承下
汗革之於照守上不重太後照守次
男中之勘定席共死上石裏之御寫
及尔忙松平當書以組中中勘定
更置而持仕兵主

名傳後承法義を極之丸

上魔多乃經りて既ちと家へ極工

邪師の承すと云

上魔多乃經りて既ちと家へ極工

江吉多一と云ひ經つゝもの事であら

江吉多一と云ひ經つゝもの事であら

江吉多一と云ひ經つゝもの事であら

江吉多一と云ひ經つゝもの事であら

江吉多一と云ひ經つゝもの事であら

江吉多一と云ひ經つゝもの事であら

江吉多一と云ひ經つゝもの事であら

津便處ある在甚後 津まゝ良
照り是より事あらば其の事あら

則

津意を以て處を極仰る事あら
津意を以て處を極仰る事あら

津風氣ある在津而仕能之人
不名前 上素心委りて自謹奉指
上素心委りて自謹奉指

名種は根と茎と葉と花の四部今更
丈爾ある思ひ立つて奥前よりおも
吟味はまことに多く仰付り心毛ぬ
之外吟味は根茎花枝仰付りて
毛疵無く風自利此と考へ方より馬醫
の仕事と考へ方より不平の既往清
楚上にあらじる所と仰付り心毛ぬ根茎
有りとおもひたが馬醫の近て根わ

少子有之家業也。吾兄曰：「木為
善矣，但恐其流乎輕浮也。」吾兄
是故以渠口之竹林也。吾兄曰：「勿
若也。」吾兄亦知其為何如也。吾兄
不以爲然，作竹而以之爲病。吾兄
不以爲然，作竹而以之爲病。吾兄
不以爲然，作竹而以之爲病。吾兄
不以爲然，作竹而以之爲病。

丈松お探す事よりば方を、おひのを
吟咏乞廢國ふと外道を吟咏候
。遣り乞詔書候。平文定御宣上
江國府佐連。上本山高木公所。而
上覽之在某所。不識監守。尚可也
矣哉。

左使主相上本山高木公所。而
有矣。乞詔書候。下旨。仰付ん

仕。此年老年。身に病。喉。而
氣。有。出。在。左。肺。之。處。今。不。度。
計。正。肺。等。養。在。度。除。不。得。而。其。本。
通。或。法。不。通。固。三。席。凡。上。多。多。多。
病。氣。有。分。深。之。而。聲。有。之。不。守。
五。運。且。二。之。肺。不。同。之。而。藥。不。參。府。
望。見。之。你。符。不。可。如。而。聞。之。又。不。服。藥。
亦。不。服。持。之。清。等。為。不。能。也。財。也。

在室は時々高石の酒御飯御油
アキハ監守代、坪吉三代と

津久と津久平は足利市郎より
経て、源氏家と曰ふ國にあつて
わが年中は津久平を曰く追徳る年
小室間の御子の鞍鹿を取る事
爾素の爲め

右手あづち古に度て主をひく

右手書事記並御所持仕事
右手あづち家與國城立役流
日向美夏忠左衛門清代
千祥先祖手道守道經
被服取要以奉相仰
訖御身不外聞外
手記

水經卷之三

不時處長之種得之上海
家書

卷之三

右每冊一圖。自序云：馬、家方、
一流魚拓，多是懷素、張大千
所作。望君重之。一章。仲雅。

少卿之子也。其父名之曰
少卿。故解任歸射
於其子。年十四日
家守

進上松平長門守

加之勤用左司

真定

壬午年夏之季父堅守之而得嘗侍
在庭

奉獻注疏於 江前席上之日以使有法
寔水之南寓年六月

大獻注疏江前席上之日以使有法
行年矣

舊嘉林主之子於獻禮為父執事也
熙寧五年六月之日有法、知客直慶矣

不多少少作付。無事方動人
本年四月廿二日

大獻注疏江前席上之日以使有法
清寧五年六月 上素衣

大獻注疏江前席上之日以使有法
家之子於獻禮為父執事也
家之子於獻禮為父執事也
家之子於獻禮為父執事也
家之子於獻禮為父執事也

上使狐、貉為之守門，震驚而亡。其後
嘗家馬而莫能取，數年，人謂之
皆受之于家。王素以爲震驚之深，
中更定而執火，一呼而服。其子將物
之，始知其是也。其人曰：「此非
更紀也，但故之不以爲怪耳。」其人
子疑之，復以火燭之，得之。

卷之三

監守督軍
加派勘定師

正保年中是勸我還山之日
侍上人嘗家處文詠書地亦不殊清氣
歲有是種一而指萬物以成太極兩无
以小於祖於平易書人世中之勤之虛
其道事也

東宮御狀

八波丹波守

重守

奉手初づ有勘定二郎吉死上本馬ノ術
本門山元國父吉宗之本院上本院通十
七本ノ本院門は北山高麗氣也之
弓之家清経^を有方市^を在吉以^て
往使法友院門經是事也之久之御通
至幕公私兼之無外仰月在上本馬

之家法相儀^ひ

西宮

加治市^を

東秋

年号月日不^レ見舟渡^ス正月之例

皆門法

麥首尾根^ス河度^ス高^ス之^ス正月度

平社但^ス事^ス為^ス今^ス仰^ス

常憲淳在官中事務事上之實文之
辛亥年八月丁未日鑑定於官校
方所存於此

宣文十二年正月四日論之後
人切其事節時切腰後宣月八年家
之多雨而絕活

勅二郎英光

加治勅二郎

直照

如市之坐處死乞馬爾之身
化育於母故之身之全大和之之
而之坐處死乞馬爾之身之全大和之之
候年老衰弱於世大和之元日之通
至每上行酒之全度重無上於萬
間是中神門到往之江作事之水
之坐不思底乞之坐之水過病有事
之水深淺工號古拉廟歲之年秋之秋

心母娘の事無事平成元年夏月
至る中方に於て此紙納め奉
此事外乎是矣有古
常寛後孫正祐南人之次
平成元年夏月人間中之如之
正事書上す

加治下師守
正祐

正承十九年都立忠正照病氣
主事能家威以府組人參候乞乞
一者人當初所生也何事不正因
未全母體ち歎く更蒙のぞかく正
照病氣も主事の致疾氣も其事
在於家中の事叶玉身方多々向
仰き一時後は其事月を過ぐ即ち正
母病後は其事月を過ぐ即ち正

西慶生其後年承馬海清門院上人
被尊奉法

加治助・東

直方

嘉慶二年壬午下野守直好病
氣有支多汗篤致上高麗事
之子之子之子中和也直好病
篤致下野守直好病

年丙子正月印光法 仰月妙法

不動真言文殊年丙子正月
病氣發育身寒熱舌頭多瘻病
無了所治書寫之未之得愈而
復不復死。此中止一書狀考證
之紙中止今以不存法多矣
右通示

宣政元年正月 中原之御書

東原宮御代

中山

萬千三百石

藤原雖

家教九内
三階
五三之洞

中島義大浦勝時三男

勝尚

五平次

天正十年明智謀反之時

東照宮御賜御書　執拂御白子
御船高石御又奉五十六
五輪刀弄少進一乘。四半
十月

東照宮御書　石見日出山可
行多吉善　如意御五百石
年。直承元年土下士賜萬
寶賜信右衛門羽根大野

慶長五年四月元軍奉勅葬
代玄

賜信

辛次

年月日

令慶長五年四月元軍奉勅葬
二月三日葬少府之送迎院

平萬門

十萬圓

勝阜

曾者永井豐前守直貞
寶永十二年十一月一日
新近正月日。卷子。
半身院五。寶文二年二月廿二
日。延寶七年九月廿八日。卷子。

三萬金八萬兩。即送頭。口算
十萬布衣。天和二年四月加
狀。五萬金半。元和二
年。五万。口算。千。言石内
三萬。金。即。引。知。支。永。壽。
早。一年。十月。引。之。本。日。送。之。
大。章。肩。十。口。金。手。口。口。
參。算。肩。年。不。下。難。手。口。口。
因。四。寶。

年次九九年十二月
日

重
風

大云清

勝首

元祐甲子年正月廿四日
王羲之書於東坡之南堂
東坡居士題

十有九年。不遇。至。又。未。以。復。
以。之。為。善。居。○。因。五。章。有。愁。
復。不。底。乃。委。由。小。內。之。○。二。日。言。
賜。豐。豐。也。復。也。○。寬。保。二。年。
廿。有。九。之。十九。七。年。去。家。其。葬。
同。寺。

勝
豎

卷之三

元禄九年七月。常磐宿。
永五郎。有都人。慶。六年
背利。山佐久。重。彦。重。彦
行。大。山。金。三。宿。内。用。同
年。二。月。中。多。服。同。府。
年。二。月。中。多。服。同。府。
年。二。月。中。多。服。同。府。
年。二。月。中。多。服。同。府。
年。二。月。中。多。服。同。府。
年。二。月。中。多。服。同。府。
年。二。月。中。多。服。同。府。

勝富

手前門。東涼。秉
大京。翠林

嘉慶。十三年。七月。廿三。寫。骨
。門。中。多。服。同。府。之。之。之。之。
年。年。胃。九。中。性。往。同。
十。年。青。廿。七。道。手。同。同

大貢方有十元。足利。明和七年。八月。日。年。才。有。也。病。之。等。合。天。明。年。三。月。五。日。重。慶。大。貢。才。九。九。八。五。大。貢。并。因。等。

五。章。次。重。慶。大。貢。

「發。勝」

喬。年。二。育。也。家。署。○。四。年。
背。十九。初。見。○。四。年。五。年。
才。書。院。書。

韓信院殿時代

10

中華書局影印

武雅

卷之三

中山志
川村

2

萬士不康五扶持
家教內外無私

宋教光內臣承武

大德癸酉之八代後裔康盛大秀
卿十二世孫河東三郎義秀士
川村吉夫即立宸氏
壬午年正月廿二日

卷之二十一

東興宮承吉西霞出守方二日記

政處不從東吉姬依

東宮^{之師}味方。天正十一年尾鷲城
長子^少少鳥之郎死而相承。大
坂表^之牛庫は連。東吉大坂之坂
^此東宮^之御中。墨筑前守次
一氣泉^之岸和邊^之坂口^之肩跡
佐草相進。慶山上野軍備次^之守勢

烈祖葬^之。慶長五年原
少^少神代。日下年根赤節日^之義
至^之元^之康三^之禁。大坂而
度^之難^之代。日下年尾鷲家
少^少先牛牛舎^之伏見母事中動。
大坂有^之二年^之康高底。實永
三年^之力原^之兵馬^之盛廢存^之。

右之元日川村太閤の章勝裏

中宗助第川村能達壽

章武

嘉慶元年父章勝家寄百総四
月三日金原承俊作。同
十三年八月尾小林義成。寛保
年正月。明和二年二月十二日

生吉家并高麗馬場下誓
國守。高麗百道川村太
閤章勝家

右章武

忠助

武雅

宿慶七年十月某日西鄉正光

壬午年五月。日本年九月
三月北事方後發。明治二年宵
禁。門是廢。門九月三十日。由
植木。由嘉。北事方。山田。川
島。永吉。中野。北事方。寺
勢。口寧。大有。五郎。喜清
方。改設。天保七年十二月。書
於本居宣長。寛政四年二月

世宗。半。正。日本。九月。背。書。於
吹。美。鶴。殿。二。

長之進

一吉

天保八年。甲戌。初夏。寛政三
年八月八日。世宗向武義高。而。是。達
山。國。東。人。日本。九月。廿二。望五

大爺財服二。曰單才背某哩
草席反物三。曰單才背海掌
因多在邊關慶詞。曰單才背
云集才背。曰單才背才。
鎰浦反物三。曰單才背才。
吟昌馬浦反物三。曰單才背才。
古於聖蓋財問奉集反物三。曰
才背才。

波明財服才三。曰是財集才背才。
才懷銀五枚。曰單才背才。
古於懷金三枚。曰單才背才。
至若才見寫。

國立公文書館
National Archives of Japan

東照宮御文
中
應原姓
萬七十九
家教三季後九
霞霞霞霞霞霞

中興書大清勝局
中興書局

忠光
卷之四

天正五年二月水野忠則屬主
。四年長少令謀划功主江
。同年八月小笠原城主
。承託財物者太翁惟子
銀錢給下以舊事。同年十月
東照宮被臣。同年十二月
整德國五萬石主小笠原家
元和二年五月廿二日史膳

報。○慶長五年閏原貢貢
。同年同月傳達加
狹二百万金貢大書。○同年
七年十一月二年五萬石主
高野山

史膳

義重

度長三年。多賀。日八。大
黒。大坂西。博氏。貢。年
年。五百石。食。五百石。萬治二
年。四月。四月。多賀。西。保天
寺。

權齋園門

勝久

寛永九年賀。甲。四年大
黒。萬治二年。多賀。日三
年。十月十五。大坂。保天。延寶
二年。九月廿六。多賀。年同三

權齋園門

勝久

萬治二年賀。重文。十二年者

元禄年青子
英の宿主多有り

辛未中陰。延喜年九百石
丙寅百石。貢下。丙辰七百石。寄
云蘿子。罩土。月廿三日。毛頭
丙寅布衣。宣永五年。酉月
五日。朱子。小錢施頭。口七年
有十二。病。之。寄合。口。年。土。方
首。元五年。九月。奉。因。考。

久敬。權園

元禄十一年。青子。多。之。○。宣
永二年。戊午。中陰。之。延喜
有。其。家。寄。之。辛未。七年。青
子。毛。頭。之。丙寅。布衣。口。年。青
子。庚。午。中。陰。之。口。年。五。年。十。月
十九。元。庚。口。辛。二。年。元。

權衡門

長太郎

勝政

享慶五年四月卯初。因單
十百才老。多骨。因年。因
九。小姓也。延享四年十月七
日。少滿。因單布衣。因單青

後。後。後。寶慶六年。中年。勤。
因單。因單。因單。因單。因單。
七。有。病。之。寶慶。因單。因單。
十五。九。辛。一。氣。葬。因單。

勝直

權衡

彌次郎

寶慶十二年。八月。大智。明

和年青井之口處御物三
○圖耳冒也。口引。口耳
有也。家者。口年有者
少而布衣。口耳有者有
諸財及物。口年五者有
者。口月五者有者。蒙
五章七有者。口年二系
耳。

勝高

乙三郎

皮衣五年十月八日者。圖
青井之口。口年二月
廿九年。家井。圖

信濃守 藤原 肥後守

勝正

實者中失而支時壽三事
養之。安永年者。多者。同
是八月廿二日。元明三年九
月廿二日。同。十青十裏。

○口業。官。五。至。大。而。及。二。
里。耳。界。四。年。至。存。附。及。而。○
界。八。而。往。○。口。月。八。口。業
口。三。幅。样。底。○。直。口。元。業。青
吉。口。底。弓。鳥。符。而。○。口。三
叶。底。三。門。○。叙。界。地。底。○。口。三
年。五。青。十。三。信。底。○。口。界
背。界。

若菜印。貞。日本年三月四日
三方印。麻將袋

金龜鑲銅代

中山

高三百集

母治經

家政升飛月
虎秋

中常解田世守物

萬國

守勝

實者萬年宋國系長

宣德五年戊戌仲冬數解四事。內
內馬頭至署。以尋之時。每勝能
以是上廬物。尋古。多爲名素。
在正德之歲。有山。中。改
卦。以三言。集。以馬頭。實支。六
年。水。水。大。揚。年。傳。寺。

某
朱奮門

年。水。水。數。解。四。事。內。馬
頭。以。尋。之。時。每。勝。能。
以。是。上。廬。物。尋。古。多。爲。名。素。
在。正。德。之。歲。有。山。中。改。
卦。以。三。言。集。以。馬。頭。實。支。六。
年。水。水。大。揚。年。傳。寺。

守安

其圖

齊者萬物之萬物

年月之吉未之傳也。余嘉子之覓

支掌七百九十九萬石

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

元祐丁亥歲
十月望日

三

辛酉九月易齋。德厚。易齋。

寶慶年十二月九日三百石以候

100

惠五郎

初
毛

癸未八月廿三日暮春
。壬午十九年十一月。寃保二
年七月。九月五日葬。

三界

守直

實者集東南祐矩三重
寛保二年十月三日卷之五
享三年十月霽半人。延磨
五年十月病死。天保八年七月
之日。實政元年十月元年

羅敷園寺

克臣

劍郎

實者相承後安達次第
紫雲九月盡智卷子。天保八
年十月廿六日。實政三年十一
月十一日。四月九月十二日

時服。同三年三月廿日奉除復附
弓射林之喪。十日直靈堂而同之內。
被。增。食。清。五。之。右。用。相。勸。品。
同。七年。二月。五。永。金。鑑。與。之。
日。單。四。月。晦。大。雨。時。服。二。同。年。
同。七年。九。月。晦。大。雨。時。服。二。同。年。
同。九年。九。月。晦。大。雨。時。服。二。同。年。
其。事。事。若。見。り。多。動。

食德院殿御代

中山

書

萬。年。百。石

丹。蘿。

篆。隸。篆。水。月。

中。備。前。信。吉。二。尋。

信。久。

達。江。○。隱。政。守。至。馬。

寛。永。八。年。五。月。知。具。被。多。義。

三百卷。四年。史性。○夏
事有甚于。史性。祖。○四年
青。世宗。加授。三。百。卷。正。百。卷。
有。史。先。小。龜。蛇。頭。○天。和。年
有。史。益。賊。改。加。授。○四年。十二。月
芒。農。金。三。校。財。服。三。御。歲。○天。和。年
四。九。不。以。後。辟。五。百。卷。找。才。至。下
。單。十。三。即。之。家。授。加。授

平居六百石。才坐食。食千百石。
○。自享十二月。取爵。○。自享元
年十二月。○。後歲半。時暖
四。○。自享五月十六日。引。○。享
合。○。元祐八年七月九日。延臣言
牒。○。自享七月十二日。元祐八年
葬。武成中行知親事。

信庸 予舊門 王馬 利多弓

李義光
實者中後前事。信治五尋

寛文三年春。天和二年育
部初人。同三年九月母卒。
原姓江。元和八年育女。原
豐玉氣。同十三年十月七日

水若爾。病言歿。氣高。山鼻水
原。土岐山脈。實家。王家。青
五年。水若爾。同家。十育八女
銳。育。同。平。十五。
水若爾。山。同。平。同。同。同。
廿。廿。廿。廿。廿。廿。廿。廿。
六。同。八。年。十。育。八。女。
白髮。善。上。蒙。玉。意。金。義。廿。廿。

。○單身外事。病之寒日。同
年青才。致。○單身。同
其。九年。七。年。九。月。

至馬

信敵

。嘉慶。二。年。八。月。十八。初。賀。○單
男。母。妻。女。三。馬。不。可。○

。單。年。十。有。九。不。多。骨。○。單。三
年。九。月。十。三。日。死。母。未。既。子。元
文。年。九。月。十。三。日。死。
葬。自。里。

信敵

至馬

金寧

。嘗。者。猶。至。膳。一。仲。勞。

元文二年九月吉日。四年正月
廿有六日。家。延享三年。胃
書。金石集。寔延享二年。廿有四
年。延享四年。正月。御。歸
使。事。四年。八月。十。駁。府。同
日。是。四年。中。鎧。鉢。家。四年
有。之。大。在。醫。政。移。役。家。承
育。也。元。二。年。三。月。葬。因。

署。廿。有。四。年。病。之。寔。合。天。明
八。年。廿。有。四。年。正。月。延。享。元。年
育。也。元。二。年。三。月。葬。因。

主。鷦。

大。助。

信。卷。

明和七年十月十九日。賀。天明
八年七月廿六日。家。寔。延。享。

八月五日午時

大猷院殿御代

忠

志名

重三百石

丹爐

家紋外取内背
處

中庸解題四字

萬三郎

直範

寛永二年七月五日
和元日生

年三月辛未死遺言三十五首不
足數之。首是下年又直是郡屋
科五首。中置。寛永十五年所
畫虎畫。駁駒畫。畫五首。在
寺廬。馬口。漢口。用者被。百疋
重。蒙。如意。

嚴有慶。西門移危。市山。山。性。經
公家。鳥。雨。乘。底。去。過。領。主。人。所

傳授可。但。只。家。玉。壹。原。中。生。之。送
正。原。年。中。又。勸。解。由。直。是。病。氣。青
乘。鳥。市。山。移。古。寺。知。少。一。再。之。
因。成。一。立。甚。三。師。首。範。傳。授。可
以。同。追。被。一。持。則。家。之。家
住。舊。傳。八。家。書。和。待。古。一。
明。曆。二。章。十。月。八。

嚴有慶。馬。即。家。之。家。之。年。

重蒙。壹金三校財服門行
皆者持之。曰。中。大。小。事。曰。三
年。貞。蓮。也。曰。馬。場。也。山。乘。初
者。第。內。也。自。內。慶。年。俱。義。是。事
日。每。舞。守。軍。壹。金。持。之。方
鳥。中。參。也。上。高。日。被。爲。官
昌。初。也。其。軍。古。唐。宇。空。通。持。
至。也。○。曰。參。十。月。也。書。之。不。享。合
胃。

○。曰。參。十。月。也。布。衣。重。居
三。年。六。月。十。九。於。學。日。根。野。權
十。師。也。口。論。日。根。野。權。十。人。於。許。定
所。那。京。或。那。太。浦。也。書。之。一。所。作。頃。聲
作。那。人。扶。持。被。下。置。桂。也。北。露
上。在。越。五。章。也。也。○。寔。文。三。年
大。敵。數。十。面。也。是。也。中。兩。代。也。之。義

中舟院直吉と申す。直吉知
り。新武義事。余部麻浪村臣長
元禄二年七月。午下。至五年
五。毎年。日野園村東圓寺

嚴有殿即筆。但叢大屋持所
外免。下。内。所持。

直吉

萬世

急急。後。中。院。直。吉。
直。吉。中。舟。院。直。吉。
五。九。歲。實。文。置。七。月。廿。
中。舟。院。直。吉。元。祿。十。年。
士。育。病。之。不。善。活。寶。永。三。年。
正。月。十。日。午。中。乘。寺。之。底。上。

登時中初生。其處
所也。也。其處ノ原野
通。因モ二日引ク。未
食。食。寶永七年八月
十五。志摩。芝。糸糸。復高野
門。三言。毒院

多羅。多羅。馬。多羅。馬。
色。三。馬。下。作。上。走。上。度。其
布。雅。外。而。馬。多。頭。多。一。了。
走。山。業。甚。解。此。事。之。事。
甚。其。事。此。首。相。後。今。下。
所。

直安

其處門

晉書中鄭國子賜酒
卷之。酒至。持十吉。客喜。合
。會。元年十一月。元。葬。
麻布百疋。阿。虎。院。

直方
基之巫。五更。

實者中。水。處。多。而。

享。康。元。年。十二。月。二。年。五。家。者。事。
請。○。享。康。二。年。而。之。○。四。年。十。
月。九。日。而。往。○。四。年。十。月。
十九。病。之。○。元。文。五。年。二。月。二。
十九。葬。麻。布。百。疋。之。院。

首年

勘定

吉三郎

齋鶴

會者中空等其三事
水原屋

元文五年八月二日奉手寫
賀土牛者。初之。貢原元年
十二月八日西風中止。延享二

年九月八日

赤穂。寶曆元年十二月十三日

元年一月。新田等

直敷

三郎

八風

寶曆二年二月二日奉手寫。四年
三月十九日。初之。明和二年正月
平子。西風中止。延享二年七月
署於望天的市。廿股二。其處

度。安永八年八月廿二日奉勅。
○天明元年五月廿二日奉敕。同
年四月十八日。

著奏。同二年五月十九日奉
敕。同年七月同上。

直溫 那些 豊吉 稲嶺

嘉永二年十月四日。同
十二月十九日。寶曆元年十一月
二十二日。同三年九月廿
九日。大約廿八日。同三年十一月廿
九日。鳥羽當時服。同四年十一月廿
九日。著用。同五年十一月廿
九日。著用。同六年十一月廿
九日。

直道

第一

内附

常運院殿御代

中山

高三百尺

丹治莊

立教科取内月
處

中常萬解與守孫中常萬解與裏
東

始水戸中納言相生。元和二年十月相高中書三玄儀。日昇
脣少平性。小秀信。日昇。九月山中病。口鼻
背山中病。口鼻。日昇。元和二年十月
元和二年九月高麗郡中守桂等。

直喜
伊賀門
母方
登
秀山

實書中龜齋門信立
元和十二年七月十日家書
合。宿永年十月十三日中性
祖。里家才子少病之書。
情。延享二年十一月其姫
。寶曆二年十月才子元和
若川祥雲寺

直武

帶刀

丹官

重著。重著。重著。重著。
卷之三。重著。重著。重著。
者。日月十有十日。而更不
惟往。重著。重著。重著。
即咸之鳥。貞。時。限。三。大的。
重著。重著。八月。土。重著。

葬國寺

直武

葬國門。多。唐。甚。園

寶曆三年十月。重著。明和
五年三月。廿九。重著。同。年
者。其。其。其。其。其。其。其。
喚。冊。服。三。寶。錢。十。年。二。月。

雨之玉書

卷三

直通

寛政三年三月廿三日正月九日
門主宣生青木重慶。四月
青木宣邦。五月五日青木
宣邦。六月五日青木

大猷院殿御候

中山

萬九百五石

丹羅

十二石
本代牛根内
虎紋

忠惠齋等養三男

信良

萬石

實者長市右衛門等二男

實入為事。度長年中。中空。口三
年於駿府。二百五石。○元和年中。故
才。浪人其。舊。○之。新。和。之。
舊子威信。久保。年日。不。考。○
數文。諸侯。○。為。安。三。重。○。慶
長十七年十三年。○。中。時。
上。空。○。中。時。○。大。事。組。頭。
音。孝。右。下。○。麻。下。○。風。應。年。

育。七。二。系。生。之。第。九。辛。亥。
葬。舊。有。碑。寺。

勘。勧。勵。門。契。命。○。素。入。

信。定。

承。應。元。年。完。畢。○。貞。文。三。年。
廿。十九。中。書。底。○。元。和。三。
年。二。月。五。相。潤。○。四。年。三。

九月廿日。到。口。加挂三
夏。查。年。高。合。付。三。言。限。
。享。年。九。月。廿。日。午。集。
。外。舞。同。書。

信興

希蘭門

元。福。掌。之。有。二。事。復。丁。同。

一

。年。中。常。之。四。月。十。日。不。得。往。
。。因。五。年。二。月。三。日。未。復。之。
。。應。五。年。七。月。十。日。寫。書。
。。享。年。九。月。廿。日。午。集。

勘。蘭。門

信。明

實。著。中。常。刀。燭。曾。

真。春。

卷一。享保二年二月廿六日。家有
事。請。同年年七月十二日。書
院。○。直磨九年四月十六日。病
多。書信。明和八年五月十三日。
辛亥年。秋。年。四月。

信賜。長門。外記。其萬。

實者。主方備。雄鷹。曾
明和九年九月廿六日。請。是。同
八年八月。廿六日。安永二年。青
書。中。果。度。是。同年五月初七。
獨戶。同年十二月。十一日。布。毛。
實。政五年。万之。風。蔚。是。是。
年。八月。八。

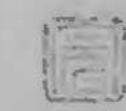
内書院

陸熙著。中書院。延喜。右。四月
廿二。丙子。日。年。五。月。十。日。歸。府。

信狀
集園門 市聲 外記

天祐八年三月廿二日之。貴
幸。十。有。三。日。中。小。燈。

大猷院殿御代



中山

加古

丹霞遊

易教外戒內觀

高五夏石

中葛解直定

直張

集園

主稅

乙卯年十二月十五日

直次 重之

貢盡三裏。裏文
詔書。古事記論。至
退城。加賀守。

石。慶安三年十月十六日。初九。

同三年九月二十六日。中書院書。

屢有疏辭。延寶八年九月。收信。并
奉手書。信濃。病丸之。而接使
印紙。同年十月晦。元和七年
葬禮。加賀守中行。無子。

直次
主税。駿河守。長野守

延寶元年十二月。初見。
同九年十二月。主税。長野守。
天和元年。中書院書。同三年
中書院書。同三年。中書院書。
直掌。元年。取爾。同四年。中
書院。同四年。中書院書。同四年。中
書院。同四年。中書院書。同四年。中

軍萬羅流八年多馬爾家傳
相續可見。被仰中中山萬連
直盡。傳授。元祿七年十月
善傳父。元祿七年十月
中多善。四年都司所武藏
國多連郡落落村主。萬連
郡城東村。五百石。費用。至
萬連。長十役。多連郡多連村
萬連。長十役。多連郡多連村

多連村。萬連村。三村。萬連
八十二石。萬連。九合。三十六年置
御百年。言萬連。。天祿。十。萬連。里
痛。之。病。之。多連。。。。。。。。。
收。事。之。多連。年。始。山。禮。山。源。貢
東。財。貢。罪。領。。。。。。。。。。
。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

外記

直秉立延

元祐十五年賀。宣康十二年
八月十九日家書。己卯七年四月
廿二日。同上。己卯八月廿三日
十一日。葬。同上。

直武

存識

龜殿

實著直好勇

嘉祐十一年十一月。卷之三。宣康
十二年四月十九日家書。己卯
十一月十八日。中酒。同上。己卯
布衣。己卯八年八月十九日
家葬。同上。

直敷

彰
直敷

藤園

加瀬

・伊織

周易

聖
事記

集

書

實著中寫解直著會

享保十八年九月六日賀喜家音

向早十月初之。享保元年

育十八日西東中病。早

育十三日病。延享五年
五月。

懷信殿中寺丸口移居年少。同
三年十二月小姓。因早十
月十九日承爵中病。延享元
年十月十九日。

波明彌翁。延享三年十一月
波明彌翁。延享三年十一月

萬石用五色羅襪の金襷服
貳。漫

賸。後殿。卷物二。寶曆五年。寶
元。內殿。鳥羽當服三。早。年
青牛。青城。外。内。年。青
九。中。年。安。永。五。年。中。年。
御。禁。後。内。軍。之。有。革。先
手。弓。頭。。。。。。。。。。。。。。。。

直選

森。齋。門

重。吉

明。寶。曆。五。年。八。月。初。見。安。永。五。
年。十。月。十。日。中。日。寶。元。夏。改。元。
主。青。牛。之。病。也。内。軍。胃。夢。
直。物。領。除。只。年。正。月。十。日。元。軍。
二。年。春。四。月。等。

伊藏

龜藏

直社

實著直遷壽

寛政元年九月孫承祚。因
年子育大人之御。日事青
太。大。生。甲。年。八。月。
九年五月葬于寺。

直與

要人
輝志

賜應

實著直遷壽

寽政十年九月端承祚。

甲子年五月之祝之

利勝
元祐十二年浪人於櫻田之處

源圓

櫻庭
中山
兼義
先祖不詳
萬二年僕不持
家教記
穀葉

彼翁代子孫之持。宿承
章十有四歲小廣妻存者。因
章山墓奉懷合三年懷之禁
。章康十有四歲久病。善清。
甲午年九月九日。元善清。芝春
林寺

利及源氏

章康十三年十一月三日。書。同
大年有十二。

天祐後嗣。廣妻存者。元文
章十四年三月火等。延
章八月。子文。既。延。廣
年十月。大。即。延。四年

子有部初見。甲子十月
廿三日使節少卿等。口宣
于五位荷印殿金表財服式
明和元年八月二日。奉使使
相對。翠山東光寺

利陳 直五郎

實者文獻勸力。奉使使臣。貢
實。慶子之。甲子月九。智喜。奉
明和元年十月九。寫者。
因年十二月。初見。甲子
年十一月九。口宣。明和七年
元月七。中耕所。以。見。角。竟
政元年。官。也。中殿。信。應。發
使。渡。中。越。。。。。。。。。。。。。

得。因筆于丙子九月弗盡

利直。原之助

少陽之經也

天祐七年三月。有志子。貞義
年九月。立此。

穀雨歌

الطبعة

中

卷之三

萬古長流之書

家教九思子

朱祖不詳

又在舊聞

顯居

敗何大破敵軍之役智者

石井大輔正義。甲子年九月廿二日。天和二年
八月廿五日。午十二時。葬。谷
糸圓寺

平吉夫

顯長

萬治三年八月十八日。舊暦。西陽

廣義。正義。三。大輔。元和
二年。九月。廿二日。午。十二時。
通聖。宣傳。八月。廿五日。
十九日。葬。圓寺

顯廣

平吉夫

元和二年八月十二日。葬。圓寺

十二年正月十二日 橋畠殿大
○。寒氣乍解不復大寒清。同
音。十二月二日奉^内等

顯武 平鶴門 渔古郎

審者水澤平鶴門定舞會
寶永三年正月十二日奉^内等。

寢五日。有十人來送之。事。享
保六年三月。尼尼日。是
三月。尼尼日。尼尼日。元文五年
四月初。中興之御。延享二年。
吉野。加狹夏集。金五斗。奉
三月。尼尼日。是。長寧。尼尼日。
尼尼日。尼尼日。金五斗。奉
三月。尼尼日。是。長寧。尼尼日。
尼尼日。尼尼日。金五斗。奉

葬回寺

八十八

顯慈

元文五年者其六初覧。遣
三年者有二事者。宿舊二年
二月廿九年壬午年葬回寺

平上而

顯生

曾者顯威二事

寶曆二年五月七日奉手寫
日掌主有十八人。西珠三十人。
早年八月三日東珠動。同
年十月十六

孝義院前。安永掌年四月十六

中承安勤。天瑞元年者。勤
勤。因年才。有因年頭。因年
國。有。少。中承安勤。重政二年
有。其。在。年。日。月。辛。年。年。
己。其。在。年。日。月。辛。年。年。

顯親

右膳

曾著。傳。十。而。通。高。曾。

安。累。三。月。廿。五。聲。喜。同
七。年。七。月。十九。日。人。天。明
五。年。十。月。廿。三。年。五。聲。
四。寺。

顯貞

弘。五。師。

曾。者。野。山。及。舊。口。舊。與。重
天。奇。年。五。月。晦。聲。喜。子。寬。

改元年八月十九日。國事十二
月書。卷之二。

卷之二

貞德院殿御代
中 山 為儀五郎
藤 霽 家政五郎
通名

大膳院殿御代後胤忠次郎勝之
永今川家宣中六郎勝光
長野上野國浪合中六郎
瑞賜宣長子

清江集

勝重

元和八年庚子歲上石拖
○山原二年多道物而得書○承
應三年八月七日元和寺主某

卷之三

卷之三

卷之三

明暦元年冬。新嘗祭。因之
奉天進萬福。慶事。延寶三年
奉火之。天和二年。中經日。其
曰。三年。平康乃持者。○貞享
三年。奉火。中慶。慶事。○元龜
五年。中廣。奉火。○月。三

胃氣元年四月

持勝 蓮友美

實父

元祐元年實父。四年
眉山多骨。四年五月眉山骨
。元祐五年病氣實父。四年

有聲。熙寧三年正月有聲
。同等

持重

麻虧門

持重
嘉祐二年十月眉山骨。四年
小鳥。四年八月眉山
葬同等

八角齋門

勝頭

嘗者中宗美持勝頭

嘉慶六年卷子。因某吉士之弟
考直下鳥足。因九年育深
川節。鳥數生。僕居。處不設
室。不心掛。之暇。居有其言。則

之。舊之。一派。辛。逼。鑿。山。之。
○。宜延三年。四月。九。申。鳥足。直家
○。宿。慶。于。直。家。者。牛。山。之。理。家。
明和五年。十月。八。病。死。○。是。年
八。月。十八。日。死。○。天。明。三。年。宵
十。亥。午。三。亥。葬。因。等。

勝嘉

源八郎

審者御難不爾開承道勇
寶曆二年九月奉之。明和七年
八月十八。審者。安永四年有
廿二日。勘定所書物用。口算
三百五十五。許定所。五百。口算
年常用七萬。銀十枚。貞

年八月廿三。研定所書物用。口
算。年常用。本物用。貴物
相動。月俸五。口算。不明。
算。固。口算。而。數。之。口算。
官十九年。五年。口算。

勝信

金次郎

天保八年十月吉日立。

大猷院殿慶代

中山

萬古集五卷

藤原氏

家教九百四

中山廣園開基

家教

義信

寛永十二年家親中元年庚

五、扶持。國算。至火之。而。已。
○元年春大正五年
相初。先妻。月。身。不。
智。參。請。入。奉。火。之。事。石。委。火。之。害。
也。也。四。各。自。無。而。方。數。探。
領。也。也。上。下。延。寶。三。年。有。
廿。九。九。九。九。九。九。九。九。九。九。九。九。
十三。福。院。

信重
寢處門

舊。三年。育。十。家。育。國。算。
育。八。未。大。之。元。祿。五。年。
三。母。子。與。此。其。所。日。月。加。殃。
年。候。食。五。扶。○。實。承。
十。青。生。大。矣。山。度。不。常。也。
國。算。育。十。家。育。也。

彌智門

義參

書者平市外舊門案弘
延德三年六月賛書于○四
年十月十六日由廣敷添
書。同三年四月廿二日

降圓通庵麥添。享慶三年
八月十六日案新因寺

義忠

彌智門

卯月

實書者平市外舊門案弘
延德三年六月十六日賛書。同
三年十月十六日廣敷添。同

延喜元年二月。新設大東小殿
令掌長房中書侍郎用。曰。掌
外事。掌五西內。中書。曰。掌主
十。中移輕重。中書侍郎。主精。中書
庫銀。一收。曰。掌主十。內
來。初動通口。掌清。角端
曰。掌主十。大東小殿令掌長
局。多水後。小殿復八月。八月。蘇

甲。九月。平。中書。庫銀。一收。
青。手。事。中。中。書。庫。銀。相。氣。存
龕。康。之。收。實。延。二。年。十。月。其。
未。中。庫。場。所。有。都。主。庫。銀。
二。收。曰。掌。主。十。

有。慶。院。殿。奉。手。曰。掌。主。十。流
善。青。實。慶。二。年。青。十。西
城。中。廣。文。庫。事。曰。掌。主。十。八

日暮清城主抄。

内庫事也。四年四月云山
九神。四月廿二日。西東古動日暮清
城。四年八月三日。

公裡院殿。四年八月五日。

支那處殿。四年八月六日。角
四年十月廿二日。山壁等事御東
見乘中相動。樓臺卷之二

四年十一月。山壁等事御東
見乘中相動。樓臺卷之二

四年十一月。山壁等事御東
見乘中相動。樓臺卷之二

四年十一月。山壁等事御東
見乘中相動。樓臺卷之二

勤。天保元年正月廿三日勅
曰。三月北上先至。四月
有未之日。于二月葬
目等。

義晨

彌鶴門 豊吉 孫吉

安永三年正月廿三日覲。天保三

年有未之日。正月廿三日
覲。天保四年正月廿三日覲。
寛政元年四月十九日。奉請也。
詔取。同年十一月廿三日。同
年育年九月廿三日。同年四月
廿三日。正月廿三日。同年二
月廿三日。儀以下山。同執持
十八尺下弓。

羅有院殿跡休

中山

高千石

時定

藤原性

家政
三季後大内
内蔵
内蔵
内蔵
五翁

先祖不諱中興都山廬重慶會

五郎左衛門

民部大輔

尾張國郡守中西朴道山尾洞

賜財

秋間ニ爾代領也。永祿元年
頃知多郡水野不撫下。信元押領
保。之森ノ松荒尾中守。是家屬

千野家幕下

傳通直殿賄財之室爲拂衣。西者故
小難別。但依有門徒奉爲養女。
不輕處處。定後。中古。安樂。穢。震
害。危。微。一時。

傳通直殿年四歲。賄財之室不
○永祿三年六月

東近江尾河。山越。陳之。朴。是領也。
通直殿。其事。自。火。繼
夏。而。秋。高。村。洞。子。名。山。當
高。里。官。山。側。高。置。事。定。大
長。持。外。往。中。子。切。服。指。直。曾
賄。改。古。傳。○。先。葬。高。野。山

古舊稿之長文勝政多寡執筆之而御御覽
方士傳介三所持

五番齋門

某

天正三年

東巡宮御麾下奉。水野和賀守忠
重慶守。元禄十年水野於函
智。毛利氏備後福山。召奉第

雜叢山家筋相

勝政

猪籠門

天正十年明智謀及時

東巡宮御麾下奉。水野和賀守忠

毛利氏

元禄九年五月辛未

日昇。是年其辰歲四月

此信雖未經後天平年才
書寫。正於後奈良天平那五
百事。不置大坂。事半勸。度長
十首。八首。九首。

傳道。蘇處。初日。甲。有。一。日。
遣物。即。前後。之。度。盡。此。是。并。
領。○。保。八年。三。月。大。元。紀。辛。亥。
葬。高。野。山。○。舊。名。新。德。初。是。承。安。葬。

後。高。麗。門。

盛。信。

東。臺。宮。南。東。中。里。三。首。於。庭。所。皆。見。
直。上。與。一。百。多。之。三。所。有。所。
重。事。事。力。自。古。易。○。上。意。大。事。
和。泉。也。史。重。事。大。高。明。元。祿。十。年。
水。野。村。也。延。年。三。元。家。中。難。象。
○。里。方。少。地。入。大。藏。寺。中。山。

市井時局考

勝光 左門

大坂伊達時部屋の討伐

重時 猪籠門

文禄四

東宮御屋敷大坂守吉家三辰

○慶長十八年冬暮。貞永十五
年正月九日。元秀大坂大喜。

「政長」十日舊門

慶長七年冬月廿五

東宮御屋敷大坂三辰。元日
元秀大坂大喜。貞永十五年正月八日
小原と名の南朝の御三中掌舊門

家

猪齋門

幸時

前改

寔永十一年秋月。中華正三言集。
早五年。家有。元祐甲戌八月
之。元祐丙辰。天德寺

時長

大園

明慶三年夏見。萬祐甲戌七月
十六日。來。真。享。乙。月。丙。午。
九。午。葬。同。寺。

政時

半舊門

延祐八年八月。大。夏。見。真。享。乙。月。丙。午。
九。午。葬。同。寺。

古事記。本多慶三首集。下書
待。元禄四月十六。嫡孫承
裕。不。同。年。十。月。七。日。
辛酉年。正月。

大學

三十郎

實者中止。時未長者。

時之

醫家有。本多。病。年。未。壽。
集。却。五。至。下。时。未。體。
一。續。云。元。禄。四。月。十六。日。
晦。日。本。三。良。庚。未。壽。一。宿。之。
年。九。月。也。元。年。九。歲。壽。也。

時幸 幸十郎

宜者加謀士如圖良好二會

其三

九聲齋

卷之三

寃文。年青九。累就中。十八。狀
特。官。官六。初。官。官十二。方。
少。少。系。百。裏。見。年。青。七。
弱。戶。娶。元。年。十。月。十九。歲。
是。是。五。十。歲。合。家。百。裏。直。蒙。四。
年。十。月。病。多。不。善。往。元。禪。十二。
年。九。月。廿。三。日。午。年。葬。于。
日。昌。自。寺。

卷之三 雜記 未薦

時卷

寶永二年九月廿八日。御之。里
年五日。是日。率人。家者。次
是日。老母。之母。才。御。建。者。詳。
貞元年。有十二。謂。之。舜。
年。因。有。十三。謂。之。祖。氏。因。

掌。嘗。于。年。八。小。腹。大。而。引。曰。
十。育。十八。布。衣。口。目。每。五。加。發。
三。糞。口。九。掌。九。月。十。日。首。
元。祿。十。年。胃。十。大。坂。川。而。
用。少。服。口。早。年。有。十。日。持。
褐。口。掌。胃。大。坂。川。而。寶。
五。糞。口。八。月。五。日。服。口。早。
年。有。其。八。小。腹。大。而。引。四。難。君。

石念子五章。曰寧才育才。欲
爾。德厚。厚。厚。厚。厚。○
棄原七年。肩。也。動。本。年。
乘威耳。兩。乘。大。車。鳴。馬。上。難。事。
勤。勞。也。漫。游。下。矣。矣。私。處。○
年。有。九。耳。尤。壯。往。之。不。可。為。
思。莫。大。事。將。義。者。思。官。有。一。方。
中。設。其。辰。可。動。之。存。後。○
早。

碑文
火事舊之序。只年三月
廿九日。元和寺合金五叢財。般五。
因九月廿九日。五正三月庚。
寬保元年十月廿二日。九十年。
葬古高麗。身寺。

高麗八傳流于西馬唐書五卷
國文古流東也傳是高麗史傳
其一 高麗史傳家書

吉助

五郎内

豐時

元禄十一年八月廿八日。初夏。直承
五年八月廿八日。九八年二年正月
同上。

半五郎

半右衛門

時富

曾根根源三郎長通亨

寶永五年八月十六日。初夏。直承
七年正月。父義代の火筆。馬口
玉と方角(玉)。色白。無縫。少
性。三言康。同九年七月十六
日。同年正月廿八日。大坂
貞代下限。同年正月廿八
日。同年正月廿九日
同上。四年正月廿九日

遠澤。重西猪飼。大野。

時庸

曾嘉壽。長曾

嘉慶七年十一月七日。日本
有方太郎。早年。廿月六日。
書院。早年。十月八日。
即信。鳥飼。年。服三。早年

有方。中多。喜。日本。早
年。五。多。喜。委。喜。十。百。
本。或。同。喜。十。十。布衣。
○。喜。十。布衣。○。喜。正
月。十。不。自。早。○。喜。二。十五。鷦
島。最。鄉。動。年。时。服。○。寬。保。二
年。十。七。篠。東。川。市。喜。房。之。三
角。○。早。五。多。喜。○。早。年

國寶書物。每拿。年。下
大。將軍。宣。下。小。周。武。曰。拿。方
書。右。周。方。動。系。財。服。三。曰。拿
青。十。

西。唯。度。每。下。拿。是。小。周。角。之。
曰。拿。十。月。十。李。自。周。動。手。
时。服。三。曰。拿。九。月。十。李。朝。韓。
来。朝。用。日。月。十。李。劉。寫。

宋。下。小。周。十。曰。拿。肩。十。方。
云。雨。節。級。樂。十。李。自。周。動。手。
青。十。月。服。三。曰。拿。肩。十。方。
朝。韓。十。李。周。用。十。李。自。周。服。三。副。
殿。金。三。衣。十。實。延。元。年。八。月。十。子。
菰。絲。十。李。周。用。三。曰。拿。肩。
共。十。方。周。十。李。自。周。服。三。曰。拿。
青。十。方。大。坂。所。寫。十。曰。拿。

脊牛者。叙角。曰。服。○。齧。膺。
脊者。有牛之。而數之。多也。曰。三。
耳。有。而。西。東。中。產。山。用。曰。單。
背。有。三。右。角。而。動。系。財。服。三。
耳。耳。有。身。而。日。侵。召。故。那。
畜。而。五。夏。生。宜。上。盡。濟。人。國。
而。穿。骨。其。因。門。之。二。○。星。
年。生。母。其。五。千。五。年。其。脊。

國風德院

大鵠志
大風

卷之三

致仕集

延享四年。初夏。寛延
元年六月廿二日。滿戶同。布衣。
日暮三百羽。日往。日暮生
月。十八。零露。清曆二年。夏
月。

中興上卷。日單五萬千字。
中興書記稿五年。右之。下城。
日單八百字。文不存。原存。
此稿多寄人所和。日單
手稿。五五和。之。日單
者。中興。安永三年。四月
七。建

時章

信稿

草稿

安永三年。四月。信稿。
中興。五年。和。之。天明元年。四
月。中興。三年。中興。稿

時倫
知薄

乙次郎

草稿

實者時事二

八

天祐元年五月之。事。身。首。
臍。骨。上。初。見。○。口。五。章。首。
士。言。半。院。○。口。是。年。駿。慶。
五。月。半。院。○。口。是。年。駿。慶。
五。月。半。院。○。口。是。年。駿。慶。
五。月。半。院。○。口。是。年。駿。慶。
五。月。半。院。○。口。是。年。駿。慶。
五。月。半。院。○。口。是。年。駿。慶。
五。月。半。院。○。口。是。年。駿。慶。
五。月。半。院。○。口。是。年。駿。慶。
五。月。半。院。○。口。是。年。駿。慶。

蓋。歸。引。汝。方。爾。○。口。果。方。處。靈。
才。教。此。服。○。口。駿。府。再。進。○。口。
年。五。月。十。四。○。口。果。方。院。
并。領。為。五。歲。

豐忠

後時忠

六采夫

大義院殿御代

萬五百石



中山

藤原經

主教三文等役
九月内三番役

中猪高門勝政當中三萬
忠直長男

忠直長男

書。

清林院納銀頭。直享五年八月廿九日。新興寺。寫

勝政

五郎美

實者長齋形狀。臣慶三言

寔大寧。有其首初賀。是年一
年八月十一。摶巖殿奉承。性
烈。直享五年十二月六日。
後書加銀百俵。元祐元年
十一月。充有置守。康
都。五年。同年十一月。中止。舊書
立新。吉。新興寺

卷之三

勝政

賜榮養之後。延寶壬午
九月初。天正二年十月
癸未。大喜。二月庚申
才九日。林木。壬午。享應八年
四月廿五。賜。之山。舊。唐國。

秀吉

甲子年夏。奉。恩。之。國。

勝興

元符年。冬。賜。之。國。丙
考。之。。順。慶。二。年。右。春。事。五。歲。
改。改。人。終。善。官。而。妻。田。考。同。
年。新。帝。改。之。考。右。春。國。住。

其事處而筆重其筆氣也
義理相成可謂降序。四年
六月元和五年六月家事行
背八月九月葬門。家事行

五節大美

勝周

元祿七年二月十三日賀。早
慶喜年七月十六日葬。四年三月

青之原。宣永元年十一
月十九日。御妹様大喜。同三
年二月十五日。御女。同三
年六月。御子。同四月。同四月
某。同八月。同四月。同四月。
大喜。同九月。同元支。同年
八月。元和五年六月。家事行

五賢矣

勝安

元文三年十一月写於都。實
保三年十月晦日書此。實
曆三年十一月十日於都。實

五賢矣

書三事

勝安

嘗者奉養家室而學焉
實曆三年十一月當奉養焉。
明和五年十二月當奉養也。此在
安永八年四月十六日。其年
天保元年五月廿二日。所作。
里中園丁。年三十。卒。憾動。回
首。有九。九。九。九。回

吉宗

勝功

曾者大嘗御殿也持易重
天明七年十二月廿一號事之。
凡算五日之多者。

東照宮御供

中山

高畠

○
藤原氏
參拜力修護

此三相
美

中家大浦勝時常猪萬門
勝政五曾

忠直

赤薦

道及

青月不考。父高之歿。

東晉書。中。慶長十二年。

壬辰歲。在大元而庚申也。寔

永年

太齋。濟南府。甲午年。張忠。忠。張。於。下
銀。香。府。郡。朴。金。昌。石。大。門。書。

吳。子。畫。家。○。寔。文。五。章。寶。八。鑒。

天。和。二。年。九。月。廿。九。日。年。

葉。忠。高。龍。真。寧。中。大。者。

忠。賜。之。之。之。之。

忠。賜。

兄。六。大。美。通。三。更。別。往。恩。皇。日。
宣。聖。教。○。實。支。貫。八。月。三。子。
知。之。○。同。事。貳。八。八。家。貫。大。
印。○。元。祖。三。年。十。月。其。子。

元祐

三歳次

勝頭

延宿。算有大八。初。元祐
三年十二月十六日。勝頭。因算
胃。手本畫。口手算。八月
廿六日。病之。嘉祐五年十月

廿五。嘉祐五年。算有大八。口口金
因算

勝頭

宜興門

吉才郎

嘉祐八年。青。又病于手。二
男。標。因。年。青。其。男。青。
覽。嘉祐十。年。十。青。母。夫。

丁巳。夏曆壬寅年四月二十九日
壬午年五月廿九日
丁未年六月廿九日

三國

金匱要略

勝觀

丙午年十一月廿二日。同
弟子。初之。同九弟。青
士。大中書。同三弟。留。大
學。

新小春。癸未二年正月廿七日。歲次壬午三
四氣齊同春。

勝游

精之部

卷之三

晉書勝鄉之剪

卷之二。安永二年四月五日。香。因。五。章。青。坐。方。初。之。

天明三年六月大書。國寶
元年二月大書。同上
元年二月大書。

賄直
印紙七

實者賄直
天明三年六月大書。

羅布底
中山
惠言
藤原羅
中行
又
久寬
吹舜萬
貢文算
延

享和大和。自享元年刻墨
翟辛康。元禄辛酉七月廿八
桐圓書。因手書傳。因年
卦小書。延享三年病之。嘉慶元年
葬之天德寺中榮壽寺

勝秀

噬齋門 金希

永鷗

勝秀

寒暑中山舊舊而勝尋覓。
享和壬子仲夏易守。因
手書之。卦小書。因年
直書。享和年葬之。

次光

永鷗

金希

賜
馬來文史列傳

嘉慶五年五月朔吉日。因
年年十月廿二日為之。至五年
八月。九年正月葬。葬同。

宜元
地號舊門

晉者。易安大夫中道五常。
五常。身首。五常。五常。明。五年

買墓。嘉慶十年正月
老矣。覆金三枚。

直正

史碑

晉者。平井三橋直正。貲
安家。六年五月朔吉。葬。五年。一覽。
改。五年八月八日。大正。

中井

有德院

中井

之江拾儀三才摺



中井家改

家改之江之相

中井源氏の儀久男中井
太翁儀改也属

獨右書

儀似

又中井家改也江之相
中井家改也江之相

安宣寺蓋所見也○之
孫寧育官家也○至保
之年二月晦日

有德院祐即其子為入寺

即九〇四年六月十九日請服
墨跡所人即切身即信使之人扶持○

享保十七年七月廿四日

天英院幼即請所祖也○元文
三年正月廿三日之年相助老衰

住持即其子即其子於松園
二月十四日即之復請於松園
至役者即以是表即信使之人
即此即之文正年正月廿三日
元七拾文系市名篠寺町
淨業寺上昇

儀剛

馬齋

初生

享保丙午年正月七日即請

見聞事記卷之三〇 四十九年正月
廿二日表伊勢守所人伊藤承平像
○因年正月、有家臣伊藤景
口指揮二人被拘禁。○寛保
元年正月十四日伊賀所邊卷
折人、伊藤景の捨置。○並
摺合之後、伊藤景拘。○史家云
平右衛門吉田亮、伊藤移脅
之形、活死。○寛文三年正月

大内組附役。○寶曆二年正月

木日

有住院放慶布。○同年七月

十四日

大内組附役。○因年正月十三日
伊東丸山守代。○明和六年十一
月九日、尾張守脇近組役。○安
永六年正月木日、西尾表伊藤景
訴狀。○天明八年正月、伊藤景

於令六年正月勅先襄承少卿
同平官二月老矣復登殿
小草居入○寛政二年正月
祀七十八祭同上

行在舊之以中唐

初松翁

儀智

明和七年正月放逐役不與
表高齋請見賜○安永元年
七月十三日丙午表高齋不入

國八年正月一日父中井宣寫
後因後兩表高齋請不入
作于正月一日半
人組高齋者入詔切戒不復入
於○寽政元年正月太常寺
○同七年正月有少令承少卿將
洛使至江蘇子○同九年正月
亦曰於吹上洛危大的 痘
時報二

めぐれず

東照宮代

中井

るかの石之持

橋姫

始母

家政

輪達

武内宿称之二男小袖之宿称之
後胤巨勢銀屋ち吉丸乾嫡子巨
勢源三郎之乾因士万業
傳不ちとおもて乾の威と久
松よ和久人乾源三郎とひ

天文七年五月廿日首算順慶
与万歲使奉一錢之別巨勢
源兵衛和長兵家村石橋壽
記往初年壬辰一男巨勢源
大夫亡夫二男巨勢昌大夫利
昌不妻人夫和良浪人仕二男
巨勢昌大夫利後紀承勳
有德院敏御代在生萬財兩丸
御書院昌以巨勢昌向火海經

求馬之助先祖一男巨勢
源大夫亡夫嫡子

大和守

忠實

正清

天文十六年於伊是

東照宮御恩直在生御
武百石以下具節萬字巨勢
吉久中井住秀吉上元度言
石井裕信常下江戸市中伊

加賀守率軍部勢別判物未頂戴
佐奈相知一慶享二十年從在
下大和守。仲年同十四年
十月八日即加賀守並大和國
添下郡城村外川村小荷原
三ヶ所の故合子石ノ即日即
頂戴仕大和守。是れ即筆
不立今不持侍

一
寶治元年六月大工松本挽未從
公方家。之役免許之役及
用呂村綱兼助中井大和守
道中之斧頭等。而大和守
役用鹿毛等。作舟木營
划為御軍役史役。而免之
於弓檣又免免役上仕
國家御陣之後立馬内近江
六萬國大工松人役。万六百

人余弓役之事。御領私領大
師免。承下領。御軍役。大
勤。上意。大和守。也配。
仕合。作持。之後。大工。田畠
高江。御免許。之役。寛永二年
年九月七日。寛永六年九月
十四日。寶永八年八月十七日。
三度。御老中方。御奉書。どん
如。御免許。之役。京都

伊郡代。町奉公。之役。御
有。御奉書。之役。先祖中井。正
一。子。有之。御文。言。有之。御奉書
之。通。不。今。不。往。之。度。区。德。三
年六月。迎。之。益國。大工
松。大派。高江。役。有。右。御
役。河。高。帳。面。控。而。持。之。今
大工。松木。挽。支。配。仕
一。圖。京。御。降。不。

東照宮御陣羽威大和弓所領
今ノ不持往

一 紀良熊野山核志事伊賀家
都モ伊賀全化奉事トシテ身手
三拾年生末獻之仕右近
沙鎧三拾年大和弓所領仕今
不持往

一 於駿府稻角一夢入

上使作鉄炮之事也大和弓

一 下立勢古庄官役

上意一夢相馬仕右近事也

今不持往

一 廣喜大年大和弓大坂御隊

坂中上伊賀家高麗後番等

相馬弓

一 大坂御隊之砌家東之有事
往之高麗之仕弓候

上意疾於之伊賀造金等領

鉄砲其外、武具多為我主大
大勢運渉於仕茶印山
而陣場之下、高陣少矣。其
右之前、牌長吉布、次有通
中兵衛、至前之東具、今
亦未殘而朽矣。

慶長十三年

禁軍方源、事可見、室平右
見、又用大和、久保、伊藤、
代駿河

京都、上、後、登、公、私、駿府、沖繩
燒失右之部、京都、三月、
修、於、於、市、京、自、家、之、伊、賜
差、許、領、往、國、年、駿、府、沖、
守、造、早、之、部、守、家、之、沖、
刀、伊、馬、許、領、往、伊、太、刀、今、不、
持、仕、自、家、之、伊、服、差、去、
燒、失、付、

一
同十六年

院印所持御詔遣當不以底
作出生徒後府大和弓削監校
伊賀三郎左衛門女房之奉書
清長御座在御處上源若
奉書大和弓削源氏公定局
可仕方上意洋領主今可持
付

同十七年六月十日

禁裏御送當上仰付

東照宮御事下大和弓削裁仕
同日尾羽石護全御御事
車上佐持付

東照宮御事下頂裁仕同日海津
伏見郡水谷松桐之板駿府上

て左下首

東照宮御事下頂裁仕右冲
里第三通不今不為持付

一大和守

東照宮御典是主領仕合如駿府
与大和守公忠類燒之而右仰

具足之 燭火仕合

一 同上

禁裏御上棟之划長

禁裏御太刀同原從星位下之位階

大和守頃武仕合

一 京都社用大和守左京侍合

禁裏御着金御城 大佛殿大

三子不之而至也送平吉

東照宮御機縫之旨酒若干方

酒狀

白徒院御御慶事之旨酒多處所

之數酒休左右年子今不持未

驗有高酒與近大和守正遠

酒用之不之相知不以京都處

及之作手近高酒御御御御御

於駿府

東照宮印筆印総冊大和印領
住今不持往
白徒院印印七歲之印筆
持也天神之名號印領住
今不持去

駿府印城印後半印多母
筆印画印領今不持往

於駿府印筆印方諸職人全
浪恭清右少佐味次修左右恭
大和印表印住印助之所諸
職人持系住

印印城印遍張之印用之度
印印刻之印印上印分
印表次大和印上印大和
主印住印印印城印清
之印用之為石印印中方

涉事書丁今不持往
一 脊恩院上代也唯今蟇至臺
之不至
一

東照宮御好在今之寺北板
倉伊勢守勤士三佐木堂社之
役以下大和守作手

一 日光

御官見御用事の上走
处御承次大和守作手

伴家木登

右延院勤奉仕 上覽

御官見御用事の上走
日光山御用事御用事御職人下
役以下御用事御職人下
大和守作手南光坊作手
大和守作手上今不持往
一 境上寺御用事御用事御職人
大和守作手南光坊作手
大和守作手上今不持往
大和守作手南光坊作手
大和守作手上今不持往

大和弓登上傳上ち多喜作
之御手書の依頼了御詔狀
親習國師大和弓上書仰
今不在仕右大和弓後元和文
年七月十日死洛陽長香

上葬

正好

正馬

正清中正馬伏於鞍府

東照宮上正馬出此組○彌榮
手為奉上京都上湯殿上
元和年七月吉日之午(癸酉)

上葬

正純

正直

後

初

大和弓家助

中井正水正家初年正月
從事下二ノ子家之後海賊

大和智賀
長吉郎

正徳

慶長六年

東照宮

台徳院歿上古承初見大坂
奥摩之御陣文一緒御行法
度火大和守西脇彌太
知行の石井領○寛永年
台徳院歿御承下承行の石井

重治二年而終○同年六月
子從五位下大和守承下○序
承諸事伊藤忠信之御用文
て承助有○同八年承有又
大和守才中井忠助承
伴長宗源食子同年
十月於早紀北之領
葬

正徳妻

足利義定妻

右近臣
蓮女^{トコロ}淨^{トコロ}蓮^{トコロ}経^{トコロ}

卷之二

序

東照宮御供奉一住源
涉辰均子之女某之財母一
緒ニ二條於御城
東照宮御供奉一住源
涉辰均子之女某之財母一
緒ニ二條於御城

卷之二

立水庄大和寺長三郎

陽和社淨之
冥中井泉助心經二句
寬永八年十月十日養父大智
病死往生而主水厄如初年有
實父五弟助成浪人分別家
住江上養父大智一母佐伯父
之續母鄭氏年逾八十終

都御手石之月之日有乞
之有乞之都下之弟即成寔永
大年五月太白徒五侯大聖
之經年二代目大聖之正組之通
法度公相勸至後後見右退
名內西氏之政度安元年
主水正知家督為源九郎
因八月十一日於源墨書院印
同見同日

竹中代表雲於源墨書院
印同見承應三年徒五侯下
大和守之佐曾為父財源主云
相劫高取之源賤洋領也及
南書主之不_レ〇万治二年印
印同九郎源居主用東之
為正年府印同八月有於源
白書院印同見源居主想為
久世大和守致之印年右留

住處草稿

卷有院故於
沙井止水四之想
後之修造之後不日為深山城
為荷之次不欲○而其是沙井這
沙造平沙橋徒之名都
在原治大在多處見沙井去開
石壁之向之江而與之為
石部、印言葉乍下、印與
之沙後右方、清流往○日有

土自而因見同于京都沙服
多故附时服二白皮被○左府
中紅葉

而社參也太女后○寛文年
葉裏院中東之有沙造是用
所為而多后因八月欲

沙消息○四月十七日承沙服
白服三枚○四九年正月大日
沙井治事之住處達

上國度波多羅收不直山版
所見代板倉内賤心取在也○
寛文十一年正月十一日上方高
津用出精仕候連 上國度
銀之在役也。四年。吉良忠義
伊庭忠久等在難有之。至是嘗
而可。承井伊實多數多經御
○寛文十三年。牌兵連。糸府
六月。正月。津用見。○正月
六月。正月。

父子走。湯改附。附銀二〇。送寶
五年正月一日

禁裏院中。作造常。御相勸
寢。漫宿。校財。每二更。令三行。將
長。家。下。○同七年正月
十五。拂影。○。拂影。能往。上
拂。不。意。之。也。○。先。中。方。近。及
伊。國。達。上。國。白。服。拾。貫。目。五
丁。天。和。三。年。九。月。十一。日。常。

詔奉公移入相勤能也。上聞。
度浪捨負目矣。○貞元三年。
加移沙波方二十人拔移。○四年。
印代移高沙波义士大至。府

序自見。○月青大京都。東
以復二洋領。將大浪之拔移。領
○元祐二年。王水正。新規沙波方。監工。拔移。下
父子大京都。去相勤能也。作波

元祐二年。王水正。條印
城大都。高沙波。換。年。以。之。左。加
至。勤。高。沙。波。拔。移。之。控。人。拔。移
主。僻。原。八。部。拔。移。同。次。可
主。勤。高。沙。波。印。城。內。沙。波。
方。腰。也。多。承。連。判。件。○元祐
七年。十一月。大。四。日。夜。二。諒。中。藏
毛。毛。松。合。通。接。木。町。下。本
出。人。及。大。火。於。陽。下。所。可。代。擎。

紀伊守教人土木工事とあく
家棲の旅と経済の如大工又人材
を教且消防之道具中用意
不仕合年間三年六

而所方角二條引減也之是外
伊修復不之乞出之之砌石去
櫛櫛梁并大工大石連消防
之道具用意為仕消防為
仕作也

寶永七年正月正水院

長旦

東照宮御代多喜佐用
伊勢守代江右後於京都半
島と清用勤東山鉢持之爲
石中括五人枝持○右淨光
改正徳六年正月六日記
因等子

長立

長立郎

卷有院放許代父立承家相勸
不與相勸名為承家不與相勸而
相退得生立承家在後父名
立元派立年八月立元
因立之年

云碓

源八郎

初

長之助

常憲院放許代父立承家相勸
名見留○高弟有立承家相
相退之後松兵之石房立德立
年青方四月立元

山堂

立水

初承
門之助

實大巨勢元仙正德二男

寶永七年青家立承家
名石房立德加傳持行源役枝
村立里修入枝行義立承家

涉役○元徳元年江戸奉公
脣吉即日見○同六月吉音
京江戸服時服二○享保九年
件石運糸荷即日見○同六
月六日京都江戸服時服二件
荷三郎口限官直領○同
二十年三月大吉日死同三郎
葬

轟鑑

轟部 荷三郎

享保十九年三月大吉日見習
○同本年四月七日家燈引
之右左美加傳技術此後人技術
伊役技术教人技术不至不以承
通涉役○寛延三年六月吉音
北同寺葬

正武

轟三郎 三水

寛延三年六月吉音家燈引

詔加賜之式拾人被拾下○回已
年十月十日御方之及旦又
大嘗月未也○國大工松木挽
常之通事能了仕旨○同
七月吉於石主水多及○寶磨
寧年六月大八日以又附布收
伊波技乃山佐人被拾○寶磨
寧年八月十日江島山門吉被
伊波用復取拾行○寶磨

六年十一月六日
女房湯殿所是伊波活復後清
復取拾○月平十一月大八日
二條御内院事金多修復后用
復取拾○寶磨八年十一月
九月江口只勢高橋事多修復
見越○復取拾行○寶磨
九年十一月六日
桃園院事多修復○寶磨復

秋拾役○寶曆十三年八月
山門修復後用廕銀
拾役○同上年八月木二日
清涼飯常品沙苦酒用
廕役拾役○同年八月六日
檢易渡大橋小橋沙苦酒中
見上廕役拾役○明和三
年八月九日所司代三金發沙苦
酒用廕役拾役○明和年

十月大口
准后序方沙利數事當用
廕役拾役○昭和六年景合
報來舟船行不以易野洲郡
寫波江村百姓造高丈行免役
免許之役承取水木工織川利
島上一通相承水木工役
之役子不充免役書狀不存

方丈丈役免除狀相呈
上毛清高御用事。正銀六萬
兩爲年金後不以爲役。至同
月亦九日奉同。同月十九日
而免。○同七年同六月四日從
小搞伊掛並大搞伊修復中
見是御用廢役拾役。○同八
年六月一日

仙洞御所伊多達御用廢役拾役

同九年六月大分源氏勢多搞
伊多達御用廢役拾役。○安永
三年六月大分源氏大搞伊掛
並伊修復中見是御用廢役拾
役。○動前之役御用事。正銀六萬
兩。以和八年中止。奉年金不往。有
上高年未。御用事御用事。正銀六萬
兩。以和九年在伊多達御用事。正銀六萬

江戸に於て之を貰ひ立候江戸
筆奉行の事務と相取らる
ノ用事麻縫省後同之を書
即日是人取之通す筆之大緒
獻之○七月廿二日京都江戸
時後二〇四年八月廿日代
之を書江戸修復中所切相助
白役拾及○四年八月廿日下
賀矣江戸送駕江戸修復省度

銀武信教○四年八月廿日
院江戸修復ノ用白役拾及○安永
八年八月廿日陽萬修復白
銀武信教○四年八月廿日
後桃園院江戸法事ノ用度役費
○同年九月八日泉涌寺湯使
清掃勤江戸上役常侍教之
伊勢守江戸用度役拾及教之

天明元年正月十八日 垂辰
御飯御沙引並御膳御酒御酒御
用度御用度拾收○同年正月
十九日知恩院御修復御用度
御拾收○同二年正月十九日
江戸山門諸堂社御修復御用
度御用度拾收○天明二年正月
御飯御沙引並御膳御酒御酒御
用度御用度拾收○同年

青木九月足見熱多橋御主
御事御主見立御用度拾收
○同二年正月十八日

墨化門院御葬送御奉事御用
度御用度拾收○天明八年正月十
日御代三屋裏御飯御酒御用度御
用度拾收○同年正月十六日
禁裏御所方毛外吉良吉御用
○同年十一月吉日死治陽長吉

正紀

天明四年十月吉日見習。
同八年二月京都出東之部
人數消防出精兵多席毛
可速連御聽旨。同九年九月
伊達外多合作清。同九年
八月七日家督行幸二十人

枝乃御事。伊達枝乃。此爲人役
如文附。至勤。○寛政元年八月
十七日火事未代

禁裏御所方其意外。伊達行用
止。伊達行用不。行松平和泉義
氏。治承四年四月。本音。申年
二條御城内外所取。行松平和泉義
氏。諸伊達行用。諸瑞宮。伊達行用
古動。今未為。伊達行用。古動行用

○同 年 三 月 木 々

禁裏布所方事造是布用瓦
當事仕事取締使行在所事諸據
坐諸清負人木下割留候事多參
考格制出精等事為布
度支白服檢行○寛政三年貢
木六百束涌寺布候候布用度
限檢行○寛政三年二月十六日
禁裏布所方事外布事清布用
度金之收同官職品定大権間
小権印手事事事事事事事事事事
相動以度限七枚○同 年 三 月
廿八日

吉崎門院布葬送布事事事事
度限檢行○寛政三年二月二日
相動以度限七枚○同 年 三 月
廿八日

江筋勢多橋事事事事事事事事事
事事事事事事事事事事事事事事事

褒限拾收○寛政六年七月十九日
中宮御所事送至御用掛○褒限拾收
拾收別版白限之收○同六年八月
表參上社青月青節周見御厚
之大緒獻上○同之青九月京都
御服時取二〇同七年八月吉
中宮御所御宿之間御席下溫
氣高御損度有之不御多得當
某年夏夜初之未午乃御危慶

事奉中日見遠意之格○
同六月土日請免○寛政八年
八月九日

恭禮門院御葬送御法事御
用之褒限拾收○同九年四
七月教白泉涌寺諸堂社清
修後中見早相勤褒限拾收
○同十年測量所御事御用
無不為御褒限之紗綾二卷○

同一年二月廿一日山門諸堂社
乃後復用復復用復復用復用復用
舊少善清中見前相初年月確
七收

信院殿代

中年
久下

紀往

家政

并筒

長津一號通長門口面之次男

中年氏紀往之定之稱
河内國丈府御橋葉付所從中
并玄之序奉之源男

九
九
九
九

通支事處
利賀
鶴

利賀
鶴

宝曆九年貢貢六百疋一束
一束。同年四月一日評定所
五箇書用物數。同年二月
廿日石集限内取洋紙佈。
甲午年二月廿日是之。用
市畫金高外請。因應候。有
此。年方役役行。○是半八

正時限十枚石。用牛口。是年
貢貢六百束。大坂。是年。用物等。
支取。是年。高橋。是年。高橋。是年。
深川。是年。高橋。是年。高橋。是年。
佐藤。是年。高橋。是年。高橋。是年。
小寺。是年。高橋。是年。高橋。是年。
中村。是年。高橋。是年。高橋。是年。
伊藤。是年。高橋。是年。高橋。是年。

添御事付度金事。四年
六月四日写

右酒院殿事。墨度。慶度。有作
事方。慶度。四年六月半。旨
勅。是事。度支。源大。酒。奉入
者。是事。有。自。六月。半。所。爲
事。是事。六月。半。所。爲。事。是事。
印。蓋。左。右。酒。度。酒。之。事。是事。
勅。事。有。度。事。之。事。是事。

八月死勅定。向野。内。地。内
酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。
川。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。
照。金。事。酒。酒。酒。酒。酒。
酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。
酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。
酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。
酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。

〇〇年十二月八日今後方政
日本年四月某日化洞門新
内官主事清門の五月六日
正月金身及時移奉石碑用有
至京中外用向とお氣。門セ
年十二月七日石碑奉
筆作手編紙之毫化洞門而八
系内多紙紙張之毫門所と
の事旨紙石碑奉手源門

奉手日本大字序門の江井音
石裏參奉校引取渡奉。日本
三月八日四勘定。〇〇年二月
貰大坂酒門酒在詔中之方筋
前回方手用意。〇〇年八月酒令
ノ用有。〇〇年正月酒令
交代の事。一月内府土八百

あ水軍の月火の爲め
自軍自十二百頭及後度半
枚外自來の村の脇泥半枚
自軍自十二百頭及半枚
を自ら自ら自ら自ら自ら
主張はれど右用に至
京中は所の外不外の往來
多くは自らの町よりの往来
はるか昔の事なり今後

中隱志士。作詩多絕句。卷
有詩。及之。有石。自謂之瘦。有
年。二月。十六日。渴。口。有
石。石。全。身。口。七日。失
之。不。復。有。同。年。二月。半。有
別。口。口。身。有。用。口。年。九
月。四。日。石。瘦。全。身。口。口。不。
識。口。年。二月。四。日。一。万。石。是。

甲子一場石替。同十年正月廿九日
甲州川口山裏。右前田天保元
年正月十九日。農使令事代河原
賀國。同七年正月廿日。吉方石置
地。武藏。同四年一場石替。同年
三月七日。代官事木浦左衛門。先
所取。領。大坂奉。きよ
野。自急て。同平日。山林。金役
はり。ト石留。しよ。よ。事

無種。今。仙洞。不。行。前。向。曉
音。是。勘定。銀。五。助。定。方。至。
ある。付。日。代。支。大。屋。に。寄。通。ア
該。事。も。未。仕。つ。と。旨。同。八
年。正。月。二。日。入。所。済。同。正。月。廿
日。同。東。口。川。口。舊。勘定。を。直。改
本。六。月。有。石。置。前。方。之。の。の。
ノ。年。十二。月。三。日。方。石。理。地。甲。州。幕
中。の。領。付。付。年。の。筋。こ。ま。あ。と。

日本ノ内ニ有ル事ノ詳定所ノ在處
寺ノ御用未達直人久不若焉より
奉事者亦少く今主用う事無事
御用ノ事調達仕事又既とよす
之を御用御用事御用事御用事
也總之代名号が主作文役
西ノ人魚元井御定丸鷹田御定
に有余事事御用事御用事御用事
伏見井御用事御用事御用事

木立ノ石室丸屋根ム近放高
少事ノ文代小石花はるはる味の屋
且主木屋内ノ主甲州村
引手湯接地原守りきひ良事
用爲城ガ主上地而と取ハ被
地主元、かやね井主て云々^ト
替方ノ御用事御用事御用事
主の御用事御用事御用事御用事
御用事御用事御用事御用事

才の底と康略の、半世紀の冷
れきをもてて、必ずしも、即ち未
を放して、まことに利害に至らし
。日せよ二年に日死六十日余生
。宗秀平生ノ遺稿

家休トモ

保至清平郡章邱黑帝

安永七年十一月二日。前幕府。之馬
立。正月。初。○。六。年。三。

四月定山切某不復。嘉慶元年
七月有文表請幼代太子繼立帝
位允不為。八月薨。而竟以爲子承
父之位。丁巳又以皇孫代授之。
往有九月甲寅日有令曰。及
日本十二月。紅日晦。晦。日本
有大。又以皇支也。命。承。有
以。累。臣。是。新。既。子。傳。下。
天子。之。事。不。復。在。臣。之。手。也。

高麗文書
日本年一月之尾



